

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile 農業の未来へ向かって～新たな力～

町新規就農支援事業

◆岡部良和さん、久枝さん（瀬沢新田）

立沢で1年間輪菊の研修し、平成25年に瀬沢新田で独立就農して3年が経ちました。

就農してからの3年は色々ありました。1年目はハウスの菊が病気になり、処分した時は何とも言えない切ない気分でした。2年目に豪雪で育苗ハウスが潰れた時は、身体の力が抜けて頭が真っ白になり自然の力の大きさに思い知らされました。でもこの時、菊の先輩方の姿を見て自分も負けずにやっていこうと勇気づけられたことを今ではっきり覚えています。3年目は育苗ハウスで土のトラブルがあり、挿し芽が腐ってしまいました。自然相手なので厳しい事もたくさんありますけど、今までできたのも子供達が家の事や農作業を手伝ってくれましたし、菊の先輩方、地域の方々に支えられてきたからです。就農してまだ3年ですが、この3年間を振り返ると日々勉強と感謝の一言です。

今後はこれまでと同じ家族経営をしていき、芽なしの菊などを積極的に増やし、日々勉強し技術力を向上し、良い菊を作り、作付面積をふやし経営を安定させ、今まで温かく見守ってくださった方々に少しでも恩返しが出来ればと思っています。

これからもたくさんの方々に教えて頂く事がありますけどよろしくお願いします。



Stay Smile 遙かな祈り～環状集落と司祭の家～

井戸尻考古館 ☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

居平遺跡（昭和51・61年）



▲種子神様の祭壇(再現)

梨木原を構造改善の嵐が吹き抜けた40年代後半から50年代初頭、鳥帽子の遺跡でも発掘調査が行われました。縄文時代中期後半の住居が相次いで発掘されましたが、13号という住居址の壁際に、大きな二本の石斧と神火をともす釣手土器をともなって、ずしりと重い玉石が据えられていました。天然の長楕円形の礫にちょっと手を加え、あたかも米粒の胚のような形状です。種子神様の祭壇なのでしょうか。するとこの家は、穀靈の祭りを執り行う場だったのかも。

昭和61年の調査では住居や墓がぐるりと環を描く“環状集落”と呼ばれるムラの中心部が姿を現しました。今を生きる者の家が、先祖たちの墓を抱くようにして建てられているのです。

そして村の入り口は東南を、冬至の太陽が昇る方向を向いていました。復活した太陽の光がムラの中心に差し込むことで、先祖たちもまた甦る、そんな祈りが込められていたのです。

いくつかの墓穴からは、ヒスイの飾り玉が出土しました。掘り出した女性の作業員の一人は、「あっ…」と言ったままヒスイを握りしめて放せなくなってしまったといいます。数千年の時間を越えて私たちが目にすることは、遙かな祈りの断片なのでしょう。遠く海から運ばれたヒスイの澄んだ緑は、永遠不滅の魂の象徴だったのかもしれません。



▲ヒスイの飾り玉

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

【保育園の活動】

- *毎日の読み聞かせ *お薦め絵本コーナー
- *家庭への絵本の貸し出し
- *富士見町図書館出前おはなし会 など

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

～今回は「境保育園」の活動のご紹介をします～

境保育園の子ども達は絵本が大好きです。毎朝読み聞かせを楽しみにしています。「今日のお話は何かな？」とワクワクする子ども達。絵本は年齢や季節など様々なジャンルの中から選んでいますが、子ども達の興味やリクエストに答えることもあります。読み聞かせが始まると現実の世界とファンタジーの世界を行ったり、来たり



絵本の貸し出しの様子

絵本を1冊選び、好きな絵を描いたお手製バッグに入れて持ち帰ります。同じ絵本を何度も借りていく子がいますが、楽しんでいる証拠です。

しつつ想像力を広げ絵本の世界に引き込まれていきます。読み聞かせを楽しんだ絵本は「また読んで」と大人気。毎週金曜日の貸し出し日には取り合いになるほどです。絵本の貸し出しは園と家庭をつなぎ、お父さんやお母さんに読んでもらうことで親子の絆が深まります。

乳幼児期の絵本体験は子どもの心に浸透します。そして辛い時や悲しい時、嬉しい時の生きる力や心を育みます。絵本の楽しいひと時は、まさに“魔法の時間” 心に残る絵本に出会いますように…。

これからも子ども達に絵本の楽しさを伝えていきたいと思います。



富士見町図書館出前おはなし会
(年長・年中組)

大型絵本『のりものいろいろかくれんぼ』『もりのおふろ』を読んでもらいました。新しい絵本にも出合えます。

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「対話」？それとも「張り紙」？

子育てひろばAiAiで大切にしていることのひとつに、「張り紙を少なくする」ということがあります。ここで言う「張り紙」は、利用している方へのお願いや注意を促す内容のものを指します。AiAiでは、食事は和室で取っていただくようお願いしています。大型遊具やたくさんのおもちゃがあるホールでの飲食は衛生的によくないことと、子どもに生活習慣をつける意味があって（いわゆる躰け） そうしています。でも、それを利用者に告知する張り紙は館内には一枚もありません。それは、直接伝えることが大切だと考えているからです。初めて利用される方に口頭で説明する事から始まって、あとは、子どもが口をもぐもぐさせながらホールに行こうとしているような時、スタッフが直接子どもに「ごちそうさまをしてから、こっちであそぼうね」と伝え和室に誘導します。これはほんの一例です。「ホールでの飲食はご遠慮下さい。」と張り紙をはり、こちらは伝えたんだから守ってくださいよ、というような一方的な発信は、子どもを育てるという生身の人間同士の関わりを支える場では相応しくありません。直に対話をして伝えることは、相手の気持ちを傷つけないようにと言葉を選ぶようになります。言いにくいことを相手に言わなければいけない経験は、大人のコミュニケーション力も高め、相手と良い関係を築きたいと思ってとるコミュニケーションは信頼関係を生みます。対話を大切にする大人のこのような姿勢が、周りで一緒に過ごす子どもにも良い影響を与えます。子どもの社会性、コミュニケーション力を養うために、まず大人が心のこもった「伝え方」を実践しましょう。

